第４回　再生資源サプライチェーンの強靭化に関する検討会
（2026(令和８)年10月）ヒアリング資料

資料1

2025年度　サーキュラーパートナーズ
ビジョン・ロードマップ検討WG 領域別WG

自動車領域WG 最終報告書

抜粋版

Circular Partners

2026(令和8)年　3月

自動車領域WG

サーキュラーパートナーズ事務局

©copyright Circular Partners

目次

01 本WGの目的及び本資料の位置づけ …… 2

02 中長期における自動車業界の再生プラスチック需要見通し …… 4

03 自動車向け再生プラスチック供給に関する現状分析 …… 5

04 自動車向け再生プラスチック供給に関する将来想定シナリオ …… 11

05 目指す姿実現に向けた課題と必要な施策 …… 19

06 ロードマップ …… 25

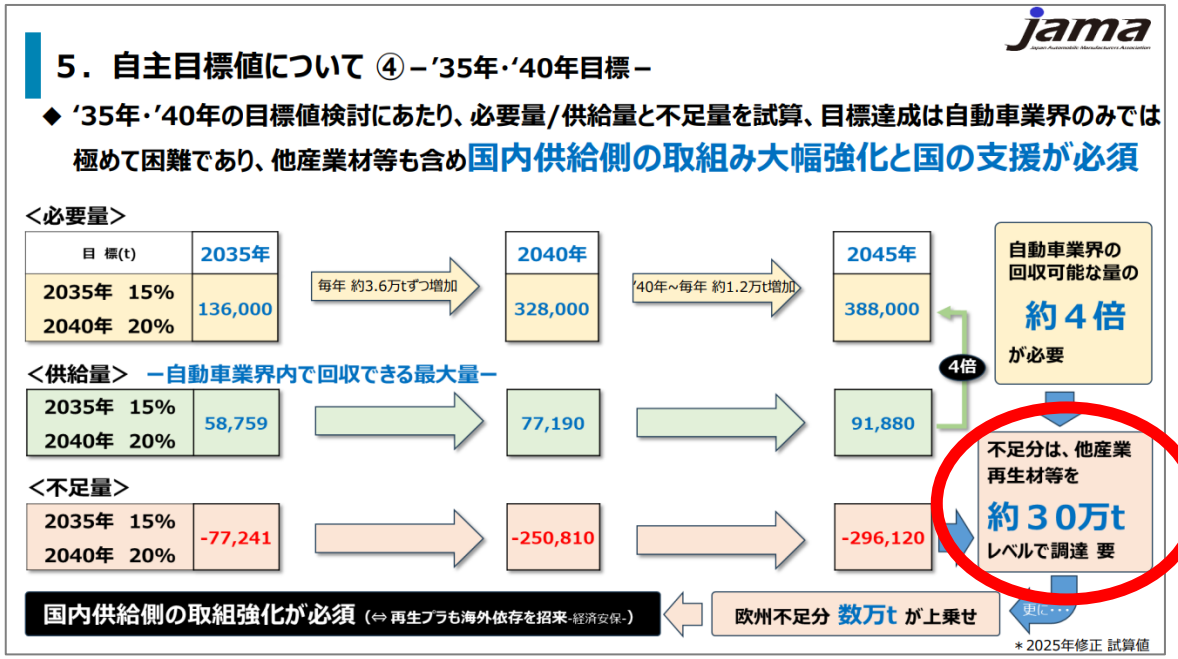
※本資料の全編、及び関連する資料は全て自工会HPにて公開・ダウンロード可能です。
（「自工会　リサイクル」で検索ください）

©copyright Circular Partners

02　中長期における自動車業界の再生プラスチック需要見通し

- 自工会は、「再生材活用促進に向けた自工会の取組みについて」の中で、再生プラスチック必要量を試算。自動車業界内で回収可能な再生プラスチック量を大幅に上回る需要（2040年時点で約30万tレベルで不足）を見込む。
- 一方、欧州では2023年7月に欧州委員会からELV規則案が提示。2025年12月に欧州議会・理事会で暫定合意され、現在2026年前半の採択を目指し最終調整中。早ければ2032年にも、新車への再生プラスチック利用が義務化される見通し。

国内自動車業界での再生プラスチック必要量試算（自工会公表資料）



欧州ELV規則動向

	EU理事会・欧州議会　暫定合意 2025年12月
再生プラスチック含有率	施行6年後　：　15% 施行10年後：　25%
上記のうちELV由来	20%

2025年12月12日欧州理事会プレス資料をもとに作成
出所）欧州連合ウェブサイト、EU理事会プレスリリース（2025年12月12日）、https://www.consilium.europa.eu/en/press/press-releases/2025/12/12/circular-economy-council-and-parliament-strike-deal-on-rules-for-vehicle-circularity-and-management-of-end-of-life-vehicles/?utm_source=brevo&utm_campaign=AUTOMATED%20-%20Alert%20-%20Newsletter&utm_medium=email&utm_id=3318（閲覧日：2025年12月24日）

出所）日本自動車工業会ウェブサイト、一般社団法人 日本自動車工業会「再生材活用促進に向けた自工会の取組みについて－2050年 長期ビジョンと中長期ロードマップ（含む 自主目標値）－」、https://www.jama.or.jp/operation/ecology/recycle/pdf/promote_use_of_recycled_materials.pdf（閲覧日：2025年11月26日）、

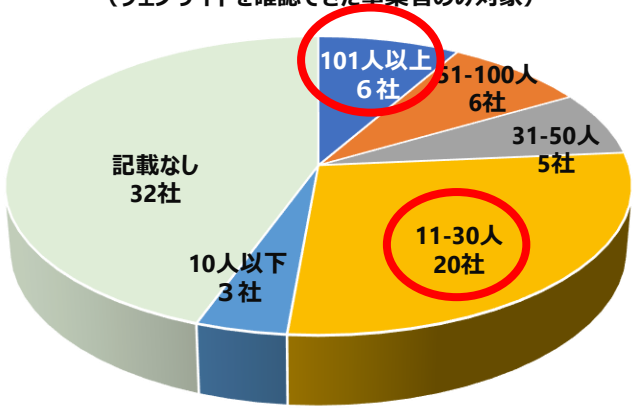
©copyright Circular Partners

03　自動車向け再生プラスチック供給に関する現状分析：国内の再生プラスチック製造業界

国内の再生プラスチック製造事業者の現状

- 再生プラスチック製造は中小規模の事業者が多く、網羅的な把握は困難。
- 再生プラスチックのコンパウンド材製造事業者は一部に限られ、再生プラスチックとバージンプラスチックの両方を扱うケースが多く、また家電・建材等、自動車分野以外向けの供給も多い状況。
- 年間約38万tの再生プラスチック生産量※では、他産業の需要や自動車向けの品質要件を踏まえると、自工会が示す約30万tの不足分を現状の供給能力では賄えない見込み。　※多段階での事業者の重複あり（全日本プラスチック工業会）

全日本プラスチックリサイクル工業会の会員事業者のうち
再生プラスチック供給事業者の従業員数分布
（ウェブサイトを確認できた事業者のみ対象）



出所）各事業者のウェブサイトをもとに作成

供給体制強化に向けた課題

- 最大の課題は、安定した原料調達の仕組みの構築。当面は自動車ビジネスへの参入促進が大きな課題。
- 多様な品質の産業廃棄物/一般廃棄物由来のプラスチックを安定的に調達・活用できる体制や技術力の強化が必要。
- 自動車向け供給を拡大するには、「品質」「価格」「供給安定性」について、自動車業界と再生プラスチック業界で調和させる必要。

出所）全日本プラスチックリサイクル工業会ウェブサイト、全日本プラスチックリサイクル工業会「会員企業のリサイクル材の生産数量・取扱数量」（令和2年10月）、http://www.jpra.biz/pdf/material/20201130_HandlingQuantity.pdf（閲覧日：2025年8月28日）

©copyright Circular Partners

03　自動車向け再生プラスチック供給に関する現状分析
：中国のプラスチック資源循環の現状及び日本市場に与える影響

中国におけるプラスチック資源循環の現状

- 使用済プラスチックリサイクル処理能力は約2,000万t程度、事業者数は1万社以上と推測されるが、詳細は不明。
- 処理能力が年間5万t以上の大手事業者は約50社あり（IPEN報告資料）、大規模事業者がさらに巨大化する可能性。
- プラスチックの回収を自治体ではなくリサイクル事業者自身が担っており、リサイクルに適した素材だけを経済合理性に基づき選別して回収できるため、原料調達が効率的な模様。
- その他、中国資源循環集団有限公司の設立(資本金2千億円)、再生プラスチックのGB/T規格（国家標準）、自動車の再生プラスチック含有率が定められたGB/T規格の草案の公表、ケミカルリサイクル推進等の施策が進展。
- 2025年12月、中国政府は再生材利用促進を目的に「再生材の適用・促進行動計画」を発表、2030年までに再生プラスチック年間生産量を1,950万t以上とする目標を掲げ、今後各種政策を打ち出す模様。

対策を講じなかった場合に想定される今後の日本市場への影響

- 中国での再生プラスチック原料の需要増加は、日本からの原料輸出や中国企業の日本進出につながり、プラスチック屑や再生ペレット等の輸出が減少せず、国内向けの再生プラスチック供給量が増えない可能性。
- 中国での再生プラスチック生産体制の拡大、供給能力の大幅向上により、中国から再生プラスチックが大量流入の可能性。結果、自動車における再生プラスチックの中国依存（国内産業衰退）の可能性。

©copyright Circular Partners

04　自動車向け再生プラスチック供給に関する将来想定シナリオ：まとめ

- 各シナリオでの2040年時点における自動車向け再生プラスチック供給量のシミュレーション結果は以下のとおり。
- 各ステークホルダーが施策や取組みを一定以上推進する想定のシナリオBであっても、自動車業界が必要とする再生プラスチック需要量を満たすことは困難。
- 各ステークホルダーが施策や取組みを大幅に強化するシナリオAを目指していくことが求められる。

	シナリオA（施策及び取組みを大幅に強化）	シナリオB（施策及び取組みが一定以上推進）	シナリオC（施策及び取組みが現状程度）	自工会 自主目標（2040年）
自動車由来 再生プラスチック供給量（工程端材は含まず）	13万t	2万t	0.7万t	
自動車以外由来 再生PP樹脂 供給量	64万t	24万t	0.2万t	
自動車向け 再生プラスチック供給量 合計	77万t	26万t	0.9万t	32.8万t以上 ※全樹脂が対象

シナリオBでは不足、シナリオAで品質面等もクリアのうえ供給最大化を目指す

注）本報告書における自動車向け再生プラスチック供給量の試算における前提条件は、環境省主催の「自動車向けプラスチック市場構築のための産官学コンソーシアム」とは異なるため、両者の供給量の試算値には差異が生じている

©copyright Circular Partners

05　目指す姿実現に向けた課題と必要な施策：長期ビジョン（目指す姿）

■ 将来想定シナリオによるシミュレーション結果を踏まえると、シナリオAに相当する将来像を目指す必要がある。シナリオAをベースとした、各関係者の長期ビジョン（目指す姿）は以下のとおり。

業界	長期ビジョン
自動車解体業	● 違法業者の排除等を前提に、国内解体業者が十分な仕入競争力を有している。 ● 中古部品の需要拡大や利用促進により、部品取外しが事業性向上につながり、中小を含む多くの解体事業者がプラスチック部品を含む部品回収を効率的に、モチベーション高く実施している。 ● 国内法を遵守する外国人事業者がJAERAに加入し、適正処理とともにプラスチック部品の取外しを実施し、日本国内での資源循環にも貢献している。
自動車破砕業	● 違法業者の排除等を前提に、多くの破砕業者で高い選別率のプラスチック選別設備が導入されている。 ● 自動車のみならず家電等各種廃棄物からも高品質な再生プラスチック原料を効率的に生産している。 ● 日本においてPCR再生プラスチック原料供給のメインプレーヤーとなっている。
再生プラスチック製造業	● 中国をはじめとした海外企業に対して、原料の仕入競争力、及び高い品質とコスト競争力を有している。 ● 多くの事業者で需要側企業と一体となった材料開発を行うとともに、再生プラスチックの由来や含有物質等の材料情報を適切に管理する体制を有しており、安定的に大量生産・供給ができている。 ● また、高い品質とコスト競争力をもって、海外でも国内企業の海外生産向けの再生プラスチック供給を担っている。
排出事業者	● 工場・事業所等における分別排出を高度化し、高品質のリサイクル原料を国内向けに供給している。
自治体・国民	● 工業原料供給の担い手との認識を持ち、容リプラ・製品プラの一括回収やプラスチック分別回収を進めている。 ● リサイクルの重要性を肌感覚として身に着け、プラスチックの分別回収への取組みが強化されている。

©copyright Circular Partners

05 目指す姿実現に向けた課題と必要な施策：課題

■ 各関係者の長期ビジョン（目指す姿）の実現に向けた課題は以下のとおり。（課題への施策例(アイディア)は次頁以降）

関係者	目指す姿実現に向けた課題
自動車解体業	● 使用済自動車引取台数確保　：違法解体事業者の排除や中古車の不適正輸出の防止。 ● リサイクル向け部品回収率向上：中古部品需要の拡大、解体事業者での動機付け、外国人解体事業者の巻き込み、地域特性に応じたスキームの確立、破砕設備の導入や輸送効率化の促進。 ● 台当たり部品回収量拡大　：全部利用(精緻解体)の促進、部品の回収し易さ向上、解体作業効率の向上。
自動車破砕業	● 引取台数確保　：不適正な解体・破砕業者の引取りや廃車ガラの不適正輸出の防止。 ● 素材回収実施率向上　：破砕事業者での動機付け、プラスチック選別の課題及び対応策の明確化。 ● プラスチック選別率向上：選別技術の確立、選別を考慮した解体や設計の推進。
再生プラスチック製造業	● 原料の安定調達　：使用済プラスチック単体での回収量と再生プラスチック原料の量と質の向上。 ● 供給量の大幅な拡大　：マテリアルリサイクルに加え、ケミカルリサイクルの推進。 ● 再生プラスチック国内循環率向上：国内循環の促進や技術・事業の競争力強化。 ● 自動車向けビジネスへの参入促進：自動車品質材料の供給が可能な企業の大規模化（材料情報の把握・管理・システム化も含む）、安定供給体制の確立。
排出事業者	● 供給量の拡大：工場・事業所等での分別排出高度化のための排出事業者に対する促進策検討。
自治体・国民	● 供給量の拡大：自治体における課題解決のための情報提供とともに、財政支援の在り方検討。さらに、官民連携による、国民への普及啓発の実施と国民が実感できるインセンティブの検討。

©copyright Circular Partners

05　目指す姿実現に向けた課題と必要な施策：再生プラスチック製造施策例

再生プラスチック製造	2040年頃に目指す姿	課題	必要な施策例（アイディア）
原料調達	一般廃棄物及び産業廃棄物からの使用済プラスチック回収量・再生プラスチック原料の供給が拡大。	● 使用済プラスチック単体での回収量と再生プラスチック原料の量及び質向上 ● マテリアルリサイクルに加え、ケミカルリサイクルの供給量の大幅拡大	● 国民に対して**分別排出を促す**インセンティブを与え、分別排出を推進。 ● 一般廃棄物からの容リプラと**製品プラの回収拡大**、**プラスチック回収の質の向上促進**。 ・**容リプラと製品プラのプラスチック別回収** ・容リ法の入札制度における**マテリサ製品のケミリサへの販売解禁** ・**モノマー化ケミリサのリサイクル手法追加**　・自治体と事業者のマッチング支援 ・**環境配慮設計を行った特定事業者への再商品化費用によるインセンティブ** ・大規模ソーティングセンターに向けた制度見直しと支援　・公設試の評価設備定額補助 ・**収率上限の引き上げと政府支援の検討**　等 ● 事業者の**分別排出の促進策**により**産業廃棄物からのプラスチック回収量を拡大**。 ・選別努力義務化　・分別排出設備投資支援　・分別排出企業表彰 ・分別排出容易な製品設計　・識別マーク　・排出業界ごとの対話と実証
国内循環	再生プラスチックの国内循環率が向上し、国内生産再生プラスチックの多くが国内需要家に供給。	● 再生プラスチックの国内循環促進 ● 輸出の国内回帰の促進	● 品質、安定供給面などでの自動車業界と再生プラスチック業界との**すり合わせを実施**、**原料の品質を明確化し**、回収量を拡大。また、同時に回収されるPP以外の樹脂（PE等）も国内再生プラスチック需要を創出（**自動車におけるPP以外の再生樹脂の利用拡大**等も含む）により、国内循環の経済合理性を向上。 ● リサイクル法に基づき回収された使用済プラスチックの**国内循環ルートの優先施策や、国内循環製品の政府調達時の配慮等**により、国内循環を促進。 ● **短期再生プラスチック需要の可視化**、需要業界との**品質評価・使いこなし**の推進により、国内循環を促進。 ● **容器包装リサイクル制度の新規創設される動静脈連携枠の活用**等により、再生プラスチック原料を活用、国内循環を促進。 ● 輸出の国内回帰を進めるために、**輸出業者と国内リサイクル事業者、ユーザー企業等との連携**を促進（場の設定）。 ● 容リプラの**再生ペレット品質の向上と輸出の抑制策**の展開。
		● プラスチックリサイクル技術・事業の競争力強化（対海外企業）	● **プラスチックリサイクル技術（マテリサ、新たなケミリサ）の研究・開発・実証**を推進し、**国による設備の導入支援や時限的な値差支援策等により普及**させ、国内循環量を拡大。

©copyright Circular Partners

05　目指す姿実現に向けた課題と必要な施策：再生プラスチック製造施策例

再生プラスチック製造	2040年頃に目指す姿	課題	必要な施策例（アイディア）
自動車向け供給比率	自動車業界の求める品質・量に見合う再生プラスチックを安定的に自動車業界に供給している。	• 自動車品質の供給可能企業の大規模化	● **自動車品質を製造可能な技術力**や、再生プラスチックの由来・材料情報を管理する**トレサビ体制を構築するコンパウンダー等に対し、国による設備導入支援策等を実施**し、再生プラスチック製造量を拡大。
		• 自動車業界の求める量の安定供給への体制確立	● 一般廃棄物・産業廃棄物等、様々な原料からの**再生プラスチック製造の集約拠点を国による各種支援（補助金、出資金等）により整備**し、自動車業界が求める量に対して安定的に供給できる体制を確立。

©copyright Circular Partners